

介護する人、介護される人

笑顔をもっと増やし続けたい。  
私たちが笑うことで笑顔が増える。



株式会社三笑堂  
代表取締役会長 上田 勝康氏

interviewer  
頭取 大道 良夫  
取締役京都支店長 森本 勝

身体機能が回復すれば人は笑顔になる。介護が少しでも楽になれば家族も笑顔になる。そんな笑顔を増やそうと取り組む医療・福祉専門商社の三笑堂。商社の枠を超えた積極的なアクションをご紹介します。

### 国内最大級の介護ショールーム 「セレクションスペース笑顔」

大道 ●三笑堂さんが昨年開設された国内最大規模の介護用品ショールーム「セレクションスペース笑顔」をお訪ねしました。介護用のベッドや車椅子はもちろん、歩きやすい靴や杖などの歩行補助用品。シャワーチェア、バスボードといった入浴介護用品。高齢者の方が食べやすいように工夫された介護食。手すりや昇降機などの住宅関連機器。数え切れないほどの在宅介護用具が展示されていますが、すっきりとしたゆとりの空間で、明るい雰囲気の中、商品をじっくり検討できます。

上田 ■日本では、これだけ多くの福祉用品や用具に実際に触れられる場所がほとんどありません。ケアマネージャーさんや理学療法士さんでさえ新しい介護用具に実際に触れられるのは春と秋の展示会くらいです。メーカーさんも常設展示の場を求めています。



おしゃれで機能性の高い杖を多数展示した「セレクションスペース笑顔」の杖コーナー

利用者さん、介護現場をつなぐためにこのショールームを開設されたんですね。  
上田 ■実際に触れ、カタログでは分からない使用感を体感いただくことで、最適な用具の選定に役立つと確信しています。さまざまな団体が主催するセミナーや勉強会の場にもお使いいただくなど、「多目的な情報発信・学習拠点」としても機能していますし、近鉄上烏羽口駅から徒歩4〜5分というアクセスの良さも好評です。  
森本 ●先ほど福祉施設のケアマネージャーさんたちが来られて、熱心にベッドや車椅子の使い勝手を試していましたね。

### 医療機器の取り扱いで培った 「生命や尊厳」に携わる自覚

上田 ■誤嚥を防止する機能を持つベッドは、メーカーへ出向かないと実際の製品を体感したり、有効性を実感したりできませんでした。当社では京都府内にある在宅事業部の営業所でも展示するようにして、周辺の福祉施設の職員さんを招いて勉強会も開催しています。

大道 ●御社の在宅事業は福祉用品をレンタル販売されるだけでなく、地域の福祉法人や職員さん、肉親を介護されているご家族との連携の輪の中で、大きな役割を担われているんですね。私も妻と共に父を7年間介護した経験があります。良い用具がいかにかの家族の負担を軽くするか、親身な情報提供がいかにかにありがたいか、身に染みて分かります。



自宅をシミュレーションしながら相談できる住宅改修コーナー

上田 ■医療機器商社として数十万アイテムもの機器や物品を病院へお届けする医療事業は当社の原点であり、今も売り上げの80%以上を占める基幹事業です。1本の酸素ボンベを届けることで赤ちゃんの生命を救えた。そのような経験を積み重ねてきたことで、どの事業においても「我々が扱っているのは物ではない、生命であり尊厳なのだ」との自覚と誇りが張り詰めています。医療・福祉に関わる製品・サービスを通してお届けしたいのは、笑顔。お客さまに笑顔になつていただくためには、まず私どもが笑顔にならう。これが三笑堂の商いの心です。

### 笑顔を決やさず迅速に的確に 個別科目に特化した専門営業も強み

大道 ●「三笑堂」の社名は「作った人、売った人、買った人すべてが笑顔でつながった商いをしよう」との思いを込めて、創業者の上田新次氏が掲げられた屋号に由来するそうです。三代目にあたる上田勝康会長が指揮される現在の三笑堂さんは、医療・在宅介護バイオ・医薬の4分野で専門商社としての事業を展開されています。近畿一円や東京の17の拠点網を足掛かりに地域密着型の営業活動を行われ、医療・福祉系ディーラーとしてはトップクラスの業容を誇っています。

※誤嚥/食物が誤って食道ではなく気管に入ってしまうこと





株式会社三笑堂 代表取締役会長

**上田 勝康氏**  
(うへだかつみち)

1967年生まれ。89年、株式会社三笑堂入社。総合営業、専門営業を経験し、2000年に奈良支店を立ち上げて支店長に就任。取締役経営企画部長を経て、2013年に代表取締役会長に就任。

## 企業理念

「SPEED and HEART」  
「BEST for SMALL」  
「ENJOY and THINKING」

我々の仕事は人の命と深く関わっています。  
あらゆる事に対し、心を込めて速やかに最善を尽くします。

## 会社概要

### 株式会社三笑堂

- 資本金/6,000万円
- 従業員数/857名(グループ計)
- 事業内容/医療・医薬・介護・バイオ専門商社
- 本社所在地/京都市南区上鳥羽大物町68
- URL/http://www.sanshodoh.co.jp

### プロフィール

- 1929年 「いわしや上田医科器械店」として創業
- 1973年 大阪支店開設
- 1975年 社名を「株式会社三笑堂」に改称
- 1981年 滋賀支店開設
- 1993年 在宅ケア事業部発足
- 1998年 レンタル事業部発足
- 2003年 バイオ事業部発足
- 2005年 在宅事業部「リメイクセンター」開設
- 2010年 東京支店開設
- 2013年 「セレクションスペース笑顔」「コミュニティスタジオ奏音」「ケアプランセンター葉」オープン



ケアサービスセンター「コミュニティスタジオ奏音」



介護ベッドの特徴や操作方法を聞く、左から速藤取締役、大道頭取、上田勝康会長、上田裕彦名誉会長、森本支店長

現在、名誉会長を務めています。当社の企業理念の一つが「SPEED and HEART」ですが、父が求める「商いに大切な迅速さ」と創業者の「思いやりの心」を含んだ深い言葉だと理解しています。笑顔を抑えず、迅速に、的確に。この姿勢を徹底することでお客様とベネフィットを分かち合えるプロ集団を目指しています。

**大道** ●医療事業では近畿や首都圏で2000もの病院やクリニックと取り引きされ、医療施設ごとのニーズに対応する総合営業だけでなく、専門営業を組織していらっしゃるのも強みですね。

**上田** ■祖父の上田新次が医療機器販売を始めたのは1929年。注射針やガーゼ、聴診器等の消耗品を主に商っていたようです。祖父を知る人が「あの人の笑顔は忘れられない」と言うくらいなので、思いやりに満ちた人柄だったのだと思います。そんな祖父が起こした事業を大きく発展させたのが、生来仕事熱心でスピード感を大事にする父の上田裕彦で、

内科、泌尿器科などの個別科目に特化したスペシャリスト集団です。例えば、脳神経外科や麻酔科等には慢性的な痛みをやわらげる電気刺激系機器など、専門知識なしでは提案できない機器も多く、「ニューロ/IVR事業部」の名で専門営業を展開しています。また、社のもう一つの強みは、医療機器を自社で修理できる技術を持っていることです。

## 医療機器の保守管理技術が在宅事業の機器修理に活きる

**大道** ●病院にも臨床工学技士がいらつしゃいますが、修理点検を外部に任せられれば何かと助かるでしょうね。

**上田** ■医療機器の保守管理で培ったノウハウはレンタル福祉用具をメンテナンスする「リメイクセンター」にも活かされ、在宅事業の強みになっています。熟練した技術で、洗浄・消毒・メンテナンスを行い、レンタル用具を常に清潔で安全なコンディションでお届けしています。

**大道** ●バイオ事業では大学や民間研究所等へ実験分析に用いる機器や試薬等を供給されています。医薬品事業ではジェネリック医薬品を扱っていらつしゃいますね。

**上田** ■先発薬より安価なジェネリックの普及を望む医療現場の声に応えた事業です。**大道** ●上田会長が情熱を注いでいらつしゃる在宅事業のスタートは93年。介護保険制度導入前です。

**上田** ■地域医療と深く関わる中でおのずと在宅介護にも目が向くようになり、先ほどの専門営業の一つとして在宅ケア事業部を設けたのが出発点でした。現在、約130人の営業担当者が介護を必要とされている方と面会し、お体の状態



自分だけの靴選びに最新の測定器で定型を測定

## ディサービスなど福祉事業に進出 現場ニーズを取り込む最前線に

**大道** ●家族にも遠慮して気持ちを伝えられないお年寄りもいらつしゃいます。そこに合った用具や、手すりの取り付け等の住宅改修のご相談に応じています。一人で約150人のお客さまを担当しますが、心を開き、信頼していただくまでにはたいへんな努力が求められます。身体機能の衰えは他人には隠したいものです。しかし、すべてをきちんとお話しただくことで真に役立つご提案ができるのです。家族同然に心をつなげることを目指す仕事ですから、利用者の方やご家族の辛さや苦しみを自分のものとして共有できる者にしか務まりません。

の一人ひとりにきちんと向き合うことから始まる仕事です。国内最大級の「セレクションスペース笑顔」では、在宅事業の営業経験を持つコンシェルジュに最適な用具を選んでいただけるのですね。

**上田** ■靴でしたらサイズだけでなく、歩行能力やむくみ、外反母趾にも注意して最適な商品をご提案します。甲が腫れ上がって「合う靴なんかない」とあきらめ顔で来訪された方が、笑顔になってお帰りになったこともありました。

**大道** ●最近では兵庫県伊丹市に「デイサービスセンター」「コミュニティスタジオ奏音」や「居宅介護支援を行う「ケアプランセンター葉」を開設されました。用具を扱うだけでなく、福祉の現場にも進出されてい

ます。

**上田** ■我々が身をもって要介護者さんに向き合えば、介護用品の販売・レンタルにおいてもより深い提案ができると考えました。「奏音」では経験豊富な介護職員を配して、介護度の高い方にもご利用いただける体制を確保しています。「ご飯がおいしくなくてダメ」との裕彦名誉会長の思いから、食事には特にこだわっています。

**森本** ●福祉施設の経営では職員さんのモチベーションの維持が大きな課題になりますね。

**上田** ■頻りにアンケートを取って悩みを酌み取つたりと、気を配っています。その成果か、ディサービスの仕事は激務です

が、まだ離職者は出ていません。「奏音」は介護用具をどのように使っているかを見たり、実際に体験してもらおうとシヨールームでもある当社では考えています。特殊浴槽や食事用テーブル等をここでご覧になり導入されるケースも増えていますし、オリジナル商品を企画する際のヒントにもなっています。

## 医療と福祉に深く関わり 2つの分野をつなぐ架け橋に

**大道** ●介護と医療は、高齢化がさらに進展する今後の最重要な課題です。三笑堂さんの社会的役割もますます大きくなるでしょう。

**上田** ■医療の人と福祉の人の交流はま

まだまだ乏しく、連携や情報交換が密接とはいえません。高齢者の生命と尊厳を支えるためには医療と福祉はもっと密接に関わっていくべきですが、どちらの現場にも深く携わる私どもが両分野の架け橋になっていければと考えています。商社が単なるディストリビューター(流通仲介者)である時代は終わり、専門的・学術的な情報を収集・選択できるキュレーター(学芸員)にならなくては生き残れないと模索しているところです。積極的にコトを起こし、モノを生む挑戦を続けていきます。

**大道** ●ぜひ、家庭の中に、街の中に、笑顔の数を増やし続けてください。本日はありがとうございました。